



IR説明会資料 (2011年3月期決算)

株式会社 極 洋 (1301)

<http://www.kyokuyo.co.jp>

■ 2011年3月期概要説明

トピックス	<u>3P</u>
企業集団の状況	<u>4P</u>
決算概要	<u>5-18P</u>

■ 2012年3月期業績予想及び施策

基本方針	<u>20P</u>
連結・単独業績予想	<u>21P</u>
事業セグメント別連結売上高・営業利益予想	<u>22P</u>
事業セグメント別方針	<u>23-27P</u>
金融基盤強化のための短期社債（電子CP）発行	<u>28P</u>
設備投資計画	<u>29P</u>

2011年3月期概要説明



トピックス

■ キョクヨーマリン愛媛(株) 設立 (2010年5月)

- ・キョクヨーマリンファーム(株)に続く2社目の本鮪養殖事業会社を設立

■ 極洋フレッシュ(株) 設立 (2010年6月)

- ・7月、旧カネサン水産(株)より事業及び関連資産を譲受け、事業開始
- ・生鮮、チルド及び冷凍の3温度帯の加工により、主に鰹・鮪事業、水産冷食事業の生産体制強化、販路拡大を図る。

■ エス・ティー・アイ(株) 設立 (2010年7月)

- ・9月、旧新東京インターナショナル(株)より事業及び関連資産を譲受ける。
- ・大手CVSチェーンとの取引に関する製造、物流、販売等各種ノウハウの取得、当社グループ各事業へのシナジー効果を図る。

■ 海洋フーズ(株) 子会社化 (2010年8月)

- ・セバック(株)(鹿島石油(株)の子会社)より株式を譲受ける。
- ・鮭鱒事業の主力製品である定塩鮭製品の生産規模増大と販路の拡充を図る。

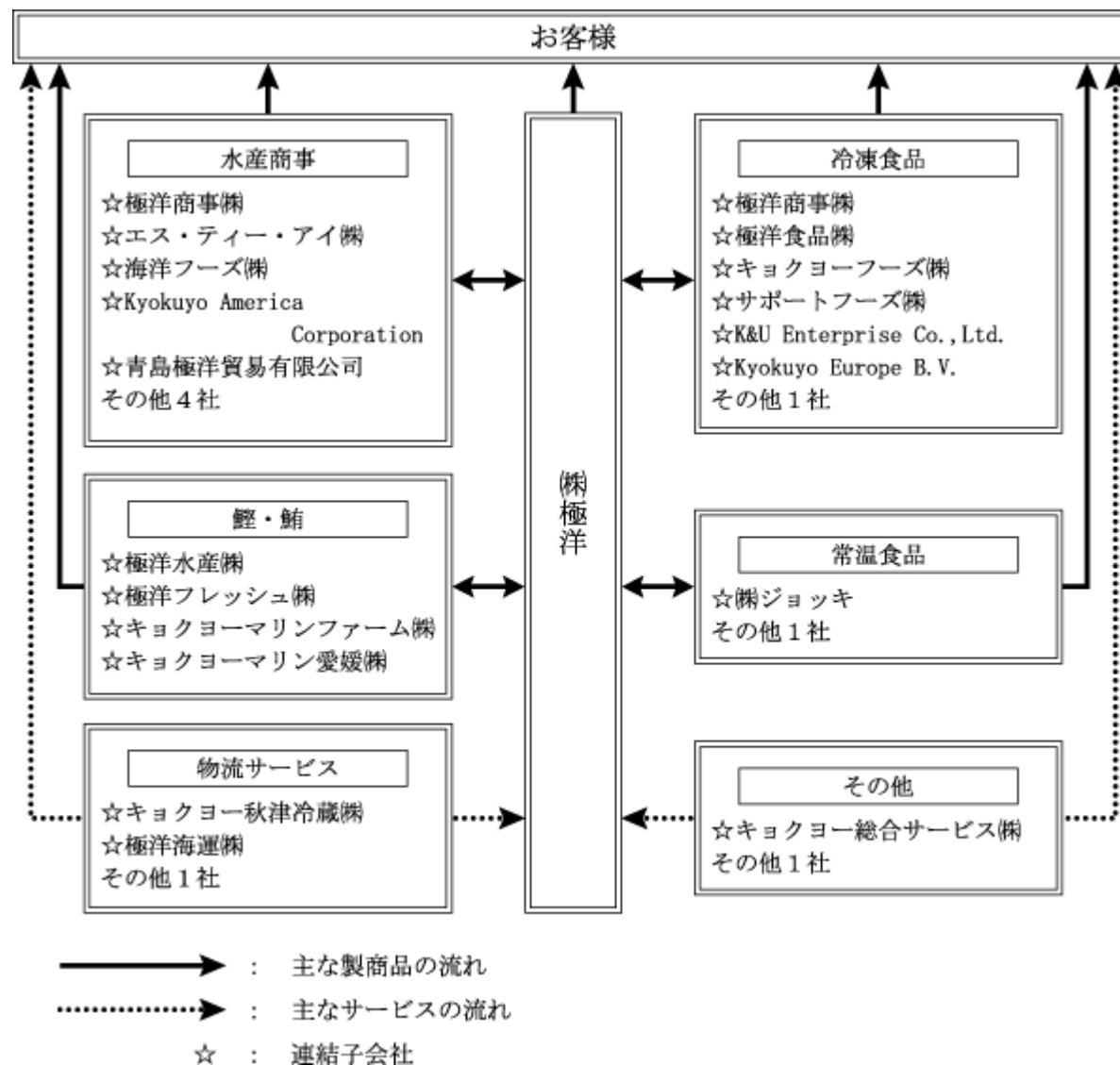
■ “スモークサーモン”が2年連続モンドセレクション金賞を受賞 (2010年6月)

■ 各種国際的な展示会に出展 (2010年)

- ・ブリュッセルシーフードショー(5月)、ジャパン・インターナショナル・シーフードショー(7月)など



企業集団の状況(2011年3月末現在)



11年3月末現在、当社グループの子会社は24社、その他関係会社は2社です。

1. 連結損益計算書

(単位:百万円)

	10年3月期	11年3月期	前期比		当初計画	達成率	11年4月15日 業績予想修正
			(増減金額)	(比率)			
売上高	145,778	162,731	16,952	11.6%	155,000	105.0%	163,000
営業利益	2,180	1,588	△ 592	△27.2%	3,000	52.9%	1,600
営業外収益	769	631	△ 137	—	—	—	—
営業外費用	399	436	37	—	—	—	—
経常利益	2,550	1,783	△ 767	△30.1%	2,800	63.7%	1,800
特別利益	8	42	33	—	—	—	—
特別損失	385	970	585	—	—	—	—
税金等調整前 当期純利益	2,173	854	△ 1,319	△60.7%	—	—	—
当期純利益	1,086	58	△ 1,028	△94.6%	1,500	3.9%	200

- ・11年3月期当初計画は、10年5月14日に発表した業績予想数値です。
- ・売上高は物流サービス事業が前期実績を下回り、冷凍食品事業が前期比ほぼ横ばいとなりましたが、他のセグメントで前期比増となり、当初計画を上回りました。
- ・営業利益は水産商事事業で前期比増となりましたが、他のセグメントで全て前期比減となり、当初計画を下回りました。
- ・営業外収益は前期はあきんどスシロー株式売却に伴う受取配当金がありましたが、当期はそうした特殊要因は無く前期比減、営業外費用は支払利息増により前期比増となりました。
- ・経常利益は前期比減となり、当初計画を下回りました。
- ・特別損失は、主に東日本大震災関連の災害損失です。
- ・当期純利益は前期実績、当初計画とも下回りました。

2. 震災の影響

**3月11日発生の東日本大震災による災害損失として
単独4億43百万円、連結6億21百万円を特別損失に計上**

(1) 建物、設備等の被害

塩釜研究所及び極洋食品(株)本社工場(宮城県塩釜市)、八戸工場、ひたちなか工場が被災
固定資産の除却損及び修繕費用として、単独80百万円、連結1億35百万円
現在は、全ての事業所において操業を再開

(2) 棚卸資産の被害

極洋食品(株)各工場、その他社外製造委託工場、被災地の営業冷蔵庫などで保管・輸送中
並びに製造作業中であつた商製品、原材料などの棚卸資産の一部において損害
被害額:単独3億58百万円、連結4億81百万円

(3) 被災地支援

被災者及び被災地への支援費用などとして、単独・連結ともに5百万円

3. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

主な増減内訳(対前期比)

	10年3月末	11年3月末	前期比
流動資産	44,953	56,145	11,192
固定資産	19,347	20,779	1,431
資産合計	64,301	76,925	12,623
負債の部			
	10年3月末	11年3月末	前期比
流動負債	38,637	50,190	11,553
固定負債	7,125	9,178	2,052
負債合計	45,763	59,369	13,606
純資産の部			
	10年3月末	11年3月末	前期比
純資産合計	18,538	17,555	△982
負債純資産合計	64,301	76,925	12,623

流動資産	
[受取手形・売掛金]	30億円
[たな卸資産]	64億円
固定資産	
[有形固定資産]	7億円
・土地	7億円
[投資その他の資産]	5億円
・繰延税金資産	5億円
流動負債	
[短期借入金]	93億円
固定負債	
[長期借入金]	9億円
[退職給付引当金]	8億円
純資産	
[株主資本]	△6億円

4. キャッシュ・フロー計算書(連結)

	10年3月期	11年3月期	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円) 2,326	(百万円) △5,079	税金等調整前当期純利益 8億円 減価償却費 21億円 売上債権増 27億円 法人税等の支払 8億円 たな卸資産増 61億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 4,515	△ 3,077	固定資産の取得 20億円 投資有価証券の取得 10億円 事業譲渡による支出 5億円
財務活動による キャッシュ・フロー	1,142	8,837	短期借入金増 87億円 長期借入金増 11億円 配当金の支払 5億円 リース債務返済 4億円
現金及び現金同等 物に係る換算差額	11	△ 29	
現金及び現金同等 物の増減額	△ 1,035	650	
現金及び現金同等 物の期首残高	3,707	2,672	
現金及び現金同等 物の期末残高	2,672	3,322	

5. (連結)経営指標

	10年3月末	11年3月末	前期比
純資産	18,538百万円	17,555百万円	△982百万円
自己資本比率	28.1%	22.2%	△5.9ポイント
たな卸資産金額	23,187百万円	29,680百万円	6,493百万円
在庫回転日数	48.8日	52.6日	3.8日悪化
有利子負債	302億円	405億円	102億円
借入金依存度	47.1%	52.7%	5.6ポイント
自己資本利益率(ROE)	6.1%	0.3%	△5.8ポイント
総資産経常利益率(ROA)	4.1%	2.5%	△1.6ポイント
売上高営業利益率	1.5%	1.0%	△0.5ポイント
1株当たり純資産	170円61銭	162円60銭	△8円01銭
1株当たり当期純利益	10円27銭	0円55銭	△9円72銭
配当性向(%)	48.7%	909.1%	860.4ポイント

- ・純資産は利益剰余金の減少、株式評価差額金等の影響により、前期比減となりました。
- ・自己資本比率は30%を目標としていますが、借入金の増加などにより5.9ポイント低下しました。
- ・自己資本利益率(ROE)は10%を目標としていますが、減益により5.8ポイント低下しました。

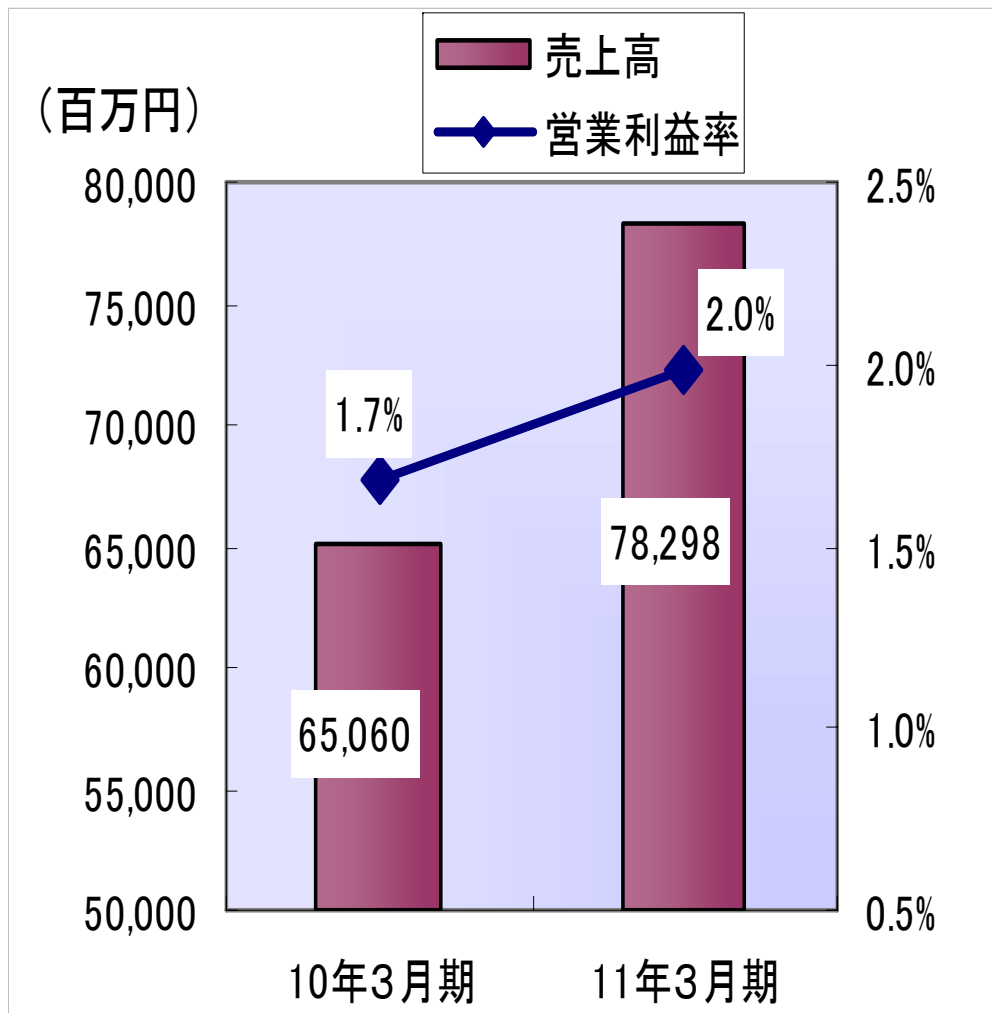
6. (連結)事業セグメント別売上高・営業利益(前期比較)

(単位:百万円)

	売上高			営業利益		
	10年3月期 実績	11年3月期 実績	前期比	10年3月期 実績	11年3月期 実績	前期比
水産商事	65,060	78,298	13,237	1,098	1,557	459
冷凍食品	42,321	42,340	19	555	247	△ 307
常温食品	13,025	13,653	628	300	299	△ 1
物流サービス	5,053	3,948	△ 1,104	62	△ 385	△ 448
鯉・鮪	20,260	24,425	4,165	576	356	△ 219
その他・本部調整	57	63	5	△ 412	△ 486	△ 73
合計	145,778	162,731	16,952	2,180	1,588	△ 592

7. (連結)事業セグメント別概況、売上高・営業利益率

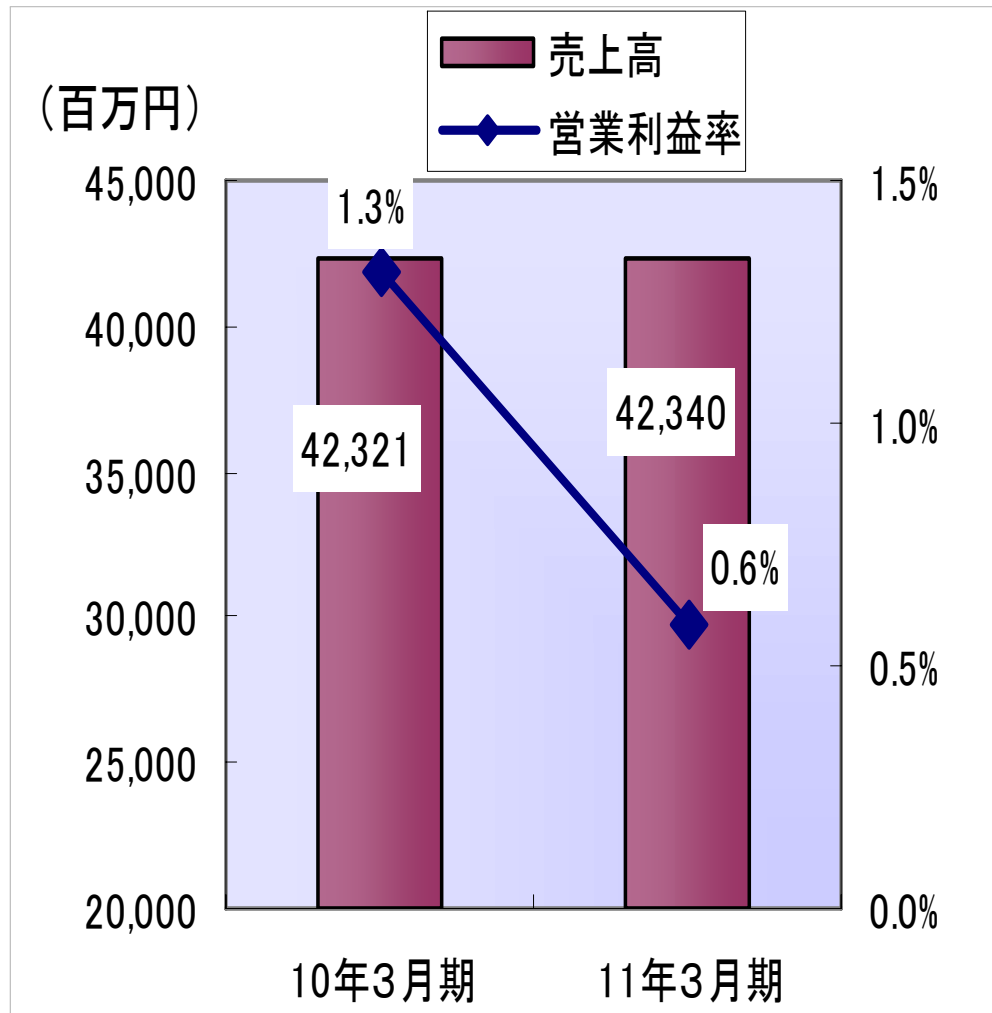
(1) 水産商事事業—水産物の買付・販売



売上高前期比増加・営業利益率前期比好転の主な要因

- ・水産のプロとして国内外からの積極的な買い付け、販売ルートの開拓に注力し、鮭やかれいなどの北洋魚の切身製品やかに・海老などの付加価値製品の拡販に努めた。
- ・新たにグループに加わった海洋フーズ(株) エス・ティー・アイ(株)が下半期の収益に貢献した。

(2) 冷凍食品事業—水産・調理冷凍食品の加工及び販売



売上高前期比微増・営業利益率前期比低下の主な要因

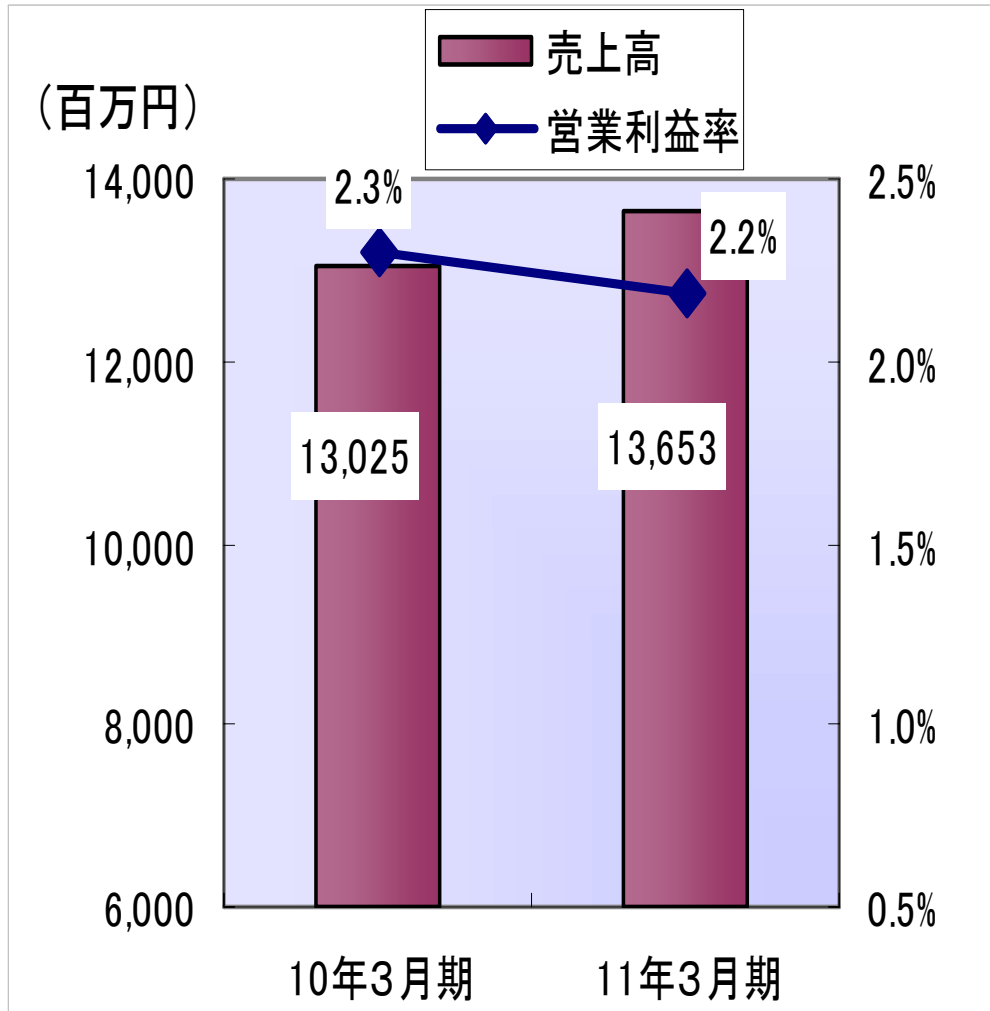
水産冷凍食品

- ・国内向けは寿司種商材やさばを中心とした骨なし切身、焼魚、煮魚等の加熱用商品を拡販し、売上は前期を上回ったが原料価格高騰などの影響を受け、利益は前期を下回った。またタイKUE社生産の冷凍寿司など欧州向け寿司関連商材の販売がユーロ安の影響などで前期を下回った。

調理冷凍食品

- ・水産物の海外需要拡大に伴う原料価格高騰と消費者の低価格志向により、売上は前期を下回ったが、かに風味かまぼこや海老加工品など高利益率商材の拡販により、利益は前期を上回った。

(3) 常温食品事業一缶詰・練製品他の加工及び販売



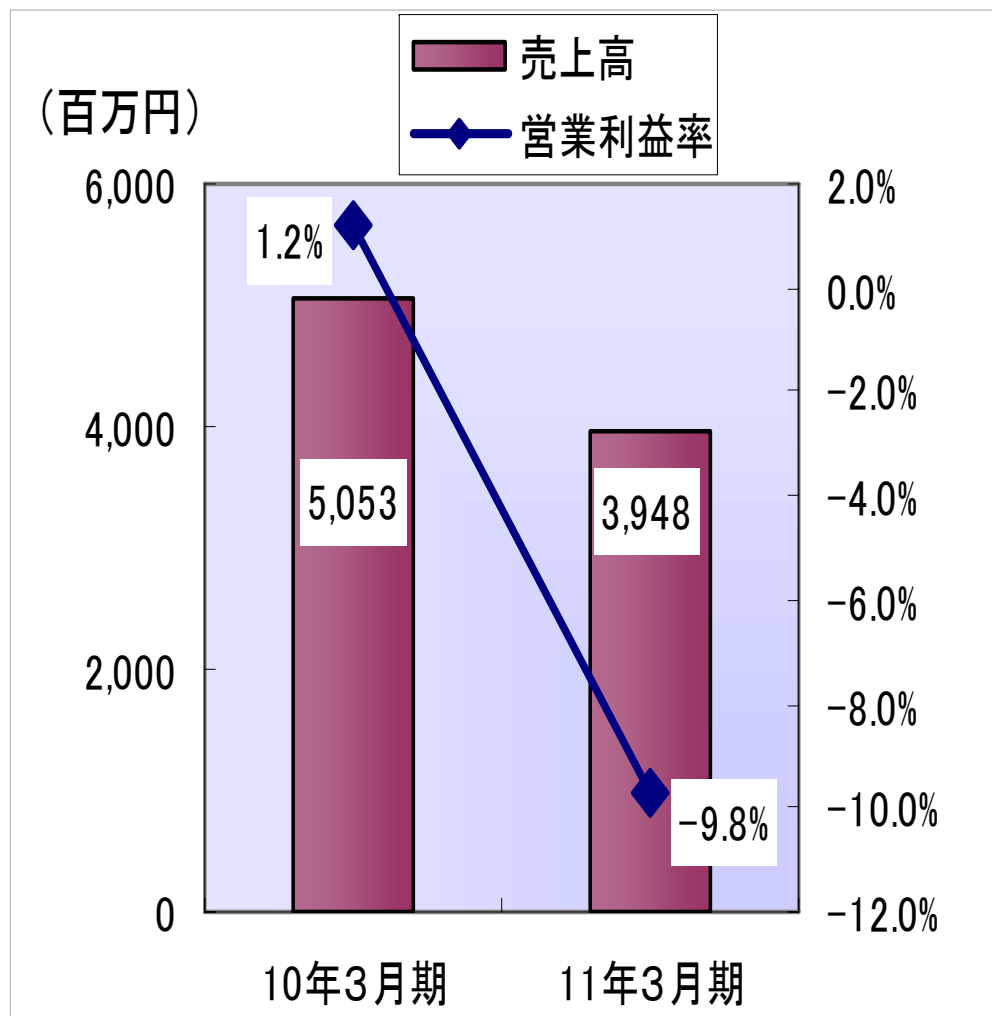
売上高前期比増加の主な要因

- ・主力の水産缶詰や海産珍味類などを中心に量販店や大手CVSルートなどへの拡販及び新規商材の開発に努めた結果、売上は前期を上回った。

営業利益率前期比低下の主な要因

- ・原料価格の高騰や空缶など資材の値上がりによる利益圧迫の傾向が一層強まり、前期を若干下回った。

(4) 物流サービス事業—冷蔵倉庫事業、冷蔵運搬船事業

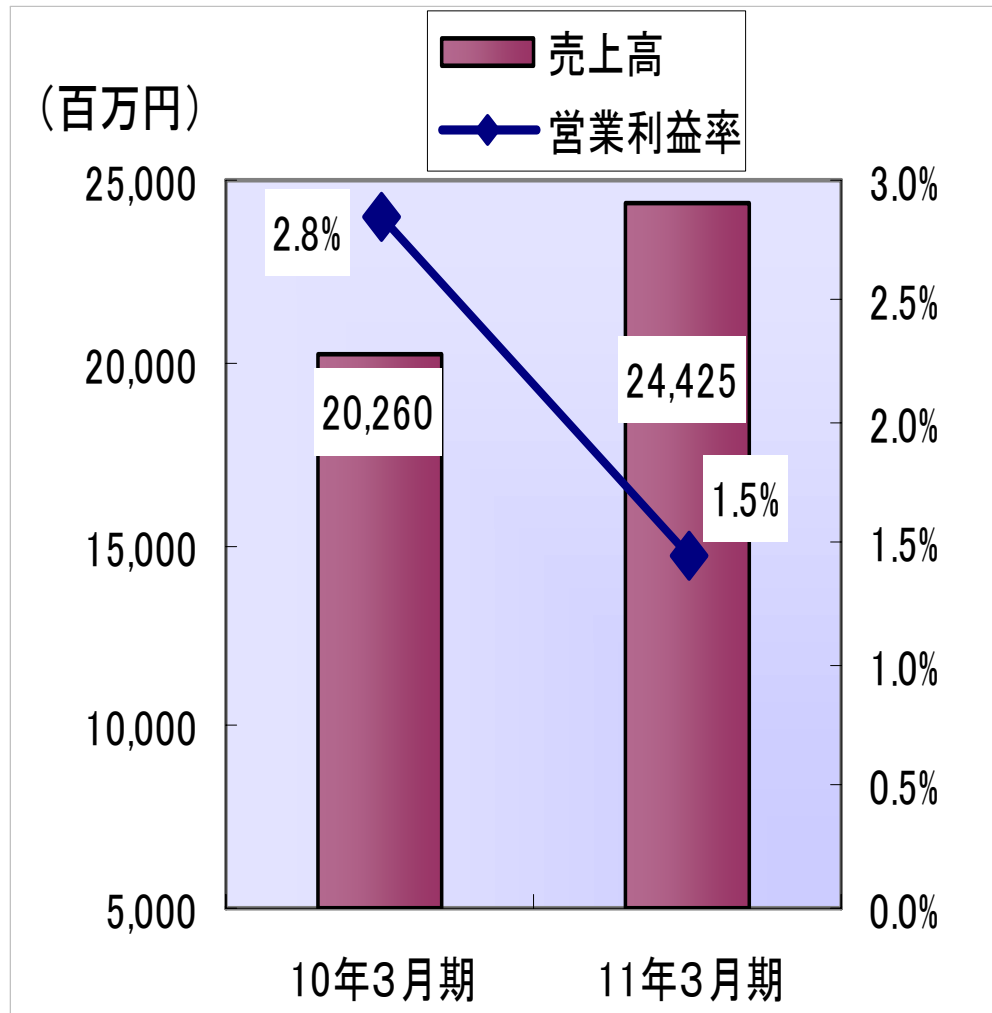


売上高前期比減少・営業利益率前期比低下の主な要因

・冷蔵倉庫事業は、営業力強化と事業の効率化・経費削減に努めた結果、売上・利益とも順調に推移したが、

冷蔵運搬船事業は、世界の景気回復の遅れや欧州の経済不安などによる購買力の減少、天候不順によるバナナ生産の落ち込み等の要因による国際的な運賃市況低迷から脱せず、事業全体で売上は前期を下回り、損失計上となった。

(5) 鰹・鮪事業—鰹鮪加工及び販売事業・海外まき網事業・養殖事業



鰹鮪加工及び販売事業

・海外買付ルート of 拡充と生産体制の効率化、外食ルートなどへの積極的な拡販に注力し売上は前期比増となったが、原料高騰などで利益は前期比減となった。

海外まき網事業

	10年3月期	11年3月期	前期比
水揚数量(トン)	26,625	30,986	4,361
水揚金額(百万円)	3,728	4,517	787
単価(円/KG)	140	146	6

・水揚数量は前期を上回ったが、かつお魚価が当初の想定を下回ったことや減価償却費増などにより、前期比増収減益となった。

養殖事業

・2009年10月より本格出荷開始。品質が評価され、売上数量・金額とも昨年を上回った。キョクヨーマリンファーム(株)が単年度黒字化となった。

8. 単独損益計算書

(単位:百万円)

	10年3月期	11年3月期	前期比		当初計画	達成率	11年4月15日 業績予想修正
			(増減金額)	(比率)			
売上高	133,674	148,009	14,335	10.7%	142,000	104.2%	148,000
営業利益	1,880	2,080	199	10.6%	2,200	94.5%	2,100
経常利益	2,265	2,187	△ 77	△ 3.4%	2,100	104.2%	2,200
当期純利益	1,115	706	△ 409	△ 36.7%	1,200	58.9%	700

- ・11年3月期当初計画は、10年5月14日に発表した業績予想数値です。
- ・売上高は各事業とも前期を上回りました。
- ・営業利益は鰹・鮪事業以外は前期を上回りました。
- ・10年3月期は営業外収入としてあきんどスシロー株式売却に伴う受取配当金がありましたが、11年3月期はそうした特殊要因は無く、経常利益では前期を下回りました。
- ・11年3月期は特別損失として8億99百万円計上(10年3月期は327百万円)したことから、当期純利益は前期を下回りました。

9. (単独)魚種別品種別 売上数量・金額・単価

(1)水産加工事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円//KG)

	10年3月期			11年3月期			前期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
鮭鱒	25,790	15,765	611	29,097	19,323	664	3,307	3,558	53
南方魚	6,419	3,817	595	6,864	4,096	597	446	279	2
北洋魚	38,272	15,894	415	39,688	16,660	420	1,416	766	4
エビ	19,777	16,711	845	20,731	17,818	859	954	1,107	15
カニ	3,817	5,970	1,564	4,206	7,337	1,744	389	1,367	180
鱈鯖鱒	6,348	2,032	320	7,781	2,453	315	1,433	421	△ 5
魚卵	3,149	4,136	1,314	5,067	5,393	1,064	1,919	1,257	△ 249
その他	5,739	3,560	620	5,112	3,536	692	△ 626	△ 25	71
計	109,310	67,886	621	118,547	76,616	646	9,237	8,730	25

(2)海外事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円//KG)

	10年3月期			11年3月期			前期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
北洋魚	6,235	932	149	1,475	367	249	△ 4,760	△ 564	100
鮭鱒	825	198	240	970	275	284	145	78	44
その他	1,187	293	247	2,362	984	416	1,175	691	170
計	8,247	1,422	172	4,807	1,626	338	△ 3,440	204	166

(3) 冷凍食品事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円/KG)

	10年3月期			11年3月期			前期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
水産冷凍食品	30,829	24,102	782	30,019	25,967	865	△ 810	1,865	83
調理冷凍食品	25,061	14,083	562	25,264	13,749	544	203	△ 334	△ 18
計	55,890	38,185	683	55,283	39,716	718	△ 607	1,531	35

(4) 常温食品事業

(金額:百万円)

	10年3月期	11年3月期	前期比
缶詰・練製品他	8,919	9,465	546

(5) 鰹・鮪事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円/KG)

	10年3月期			11年3月期			前期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
鰹鮪(買付・加工品)	22,649	16,652	735	24,650	19,881	807	2,001	3,229	71

2012年3月期業績予想及び方針

1. 基本方針

『キョクヨーグループ チャレンジ2012』の最終年度として

東日本大震災によるダメージをリカバリーし、
加工戦略とグローバル戦略の更なる推進のもと、当初目標に近づけ
次期以降の中期経営計画に向けた足がかりの1年とする。

- ①高付加価値商品の拡販
- ②寿司関連事業 売上200億円に向けた体制の構築
- ③鰹・鮪事業の安定成長
- ④グループ間のシナジー効果の拡大

2. 連結業績予想

(単位:百万円)

	11年3月期 実績	12年3月期 予想	前期比	
			金額	率
売上高	162,731	174,000	11,268	6.9%
営業利益	1,588	3,200	1,611	101.4%
(営業利益率)	1.0%	1.8%	-	0.9%
経常利益	1,783	3,000	1,216	68.2%
(経常利益率)	1.1%	1.7%	-	0.6%
当期純利益	58	1,700	1,641	2819.1%

・連結では、前期比売上高112億円(6.9%)増、
営業利益16億1千万円(101.4%)増、
営業利益率0.9%増を見込みます。

・経常利益は、前期比12億1千万円増を予想
します。

・当期純利益は、前期比16億4千1百万円の増を
見込みます。

3. 単独業績予想

	11年3月期 実績	12年3月期 予想	前期比	
			金額	率
売上高	148,009	151,000	2,991	2.0%
営業利益	2,080	2,300	220	10.6%
(営業利益率)	1.4%	1.5%	-	0.1%
経常利益	2,187	2,200	13	0.6%
(経常利益率)	1.5%	1.5%	-	0.0%
当期純利益	706	1,300	594	84.1%

4. 事業セグメント別連結売上高・営業利益予想

(単位:百万円)

	売上高			営業利益		
	11年3月期 実績	12年3月期 予想	前期比	11年3月期 実績	12年3月期 予想	前期比
水産商事	78,298	85,000	6,702	1,557	1,600	43
冷凍食品	42,340	45,500	3,160	247	1,000	753
常温食品	13,653	13,500	△ 153	299	200	△ 99
物流サービス	3,948	5,000	1,052	△ 385	200	585
鰹・鮪	24,425	25,000	575	356	750	394
その他・本部 調整	63	0	△ 63	△ 486	△ 550	△ 64
合計	162,731	174,000	11,269	1,588	3,200	1,612

5. 事業セグメント別方針

水産商事事業

☆付加価値商品の開発と販売ルートの開拓

顧客ニーズに合った商品開発と販売ルートの開拓

①海洋フーズ(株)・・・知床サーモンフィレー

KUE社 ・・・スモークサーモン モンドセレクション国際優秀品質賞受賞(2011年)
知床サーモンスライス

②エス・ティー・アイ(株)との連携強化

③スケコ製品の拡販

④チリ(サケマス)現地加工品の開発

☆安心・安全な商品の安定供給-加工工場の分散と拡充

①国内・・・定塩鮭の加工体制の見直し

被災した極洋食品(株)八戸工場の再構築

②海外・・・中国8工場(2工場増)商品の品質の向上

コスト競争力ある加工拠点開拓(ベトナムなど)

☆三国間貿易拡大による安定的な買付販売ルートの構築(販売:アジア圏をターゲット)

☆海外要員の育成

☆在庫管理の徹底

冷凍食品事業

水産冷凍食品事業

- ☆部署横断型の寿司種生食チームを設置→寿司関連売上200億円に向けた体制の構築
原料調達から商品開発・加工・販売まで、グループ全体のシナジー効果発揮
- ☆KUE商品の拡販及びベトナム・インドネシアなどの供給ソースの拡大
- ☆大手CVS向け商材、極洋フレッシュのチルド商材など新規商材の取扱い拡大
- ☆加熱加工商材の大手ユーザーとの取組強化、売上拡大

調理冷凍食品事業

- ☆直系工場製品の集約化、海外移転を含めた最適生産の具体的検討
 - 極洋食品(株) :えびフリッターの既存製品リニューアル
クリーミーフライ、グラタンのリニューアル
新たな大型商材の開発
 - キョクヨーフーズ(株):「オーシャンキングの極」の更なる拡販
 - サポートフーズ(株) :北海道産原料を使用した特徴ある製品の拡販
- ☆海外製品を中心とした安心・安全な商品の安定供給
- ☆エス・ティー・アイ(株)活用による大手CVS向け売上増
- ☆商品開発強化・・・女子プロジェクトチームの活用

常温食品事業

☆中部以西の販路拡大

各地区量販店、寿司チェーン等の業務ルート、通販ルートの拡大と新規参入

☆わかば丸船団の漁獲物使用によるツナ缶などのコストパフォーマンスの追求

☆被災地区外の加工業者による加工減少分のカバー

☆業務用製品と新製品の開発

①業務用製品は関東以西に的を絞り、寿司チェーン・有力外食チェーン・
サラダベンダーに集中して拡販

②新製品開発は缶詰以外の容器を使用した製品に特化

☆カタログ事業の顧客サービス向上、BtoC販売促進

☆ドライフード事業施策

広域量販、CVSに集中した増販と菓子部門への売場拡大

物流サービス事業

冷蔵倉庫事業

- ☆新規荷主の獲得と既存荷主の深耕
- ☆一括物流事業として利用運送事業の推進
- ☆キョクヨー秋津冷蔵(株)大阪及び福岡事業所の施設整備と増庫対策

冷蔵運搬船事業

- ☆効率的な配船による基本船隊の維持
- ☆主要COA契約の再獲得と運賃値上げ、貸船料の値上げ
- ☆期間損益の黒字転換



2012年3月期業績予想及び方針

鯉・鮪事業

☆海外まき網事業の漁場確保策

主要な漁場海域にあるキリバス共和国政府との合弁事業開始
Kiribati and Kyokuyo Co.,Ltd設立(2011年5月)

☆インド鮪・地中海本鮪など主力商材の相場と需給動向の把握による収益確保

☆極洋フレッシュ(株)製品の拡販

- ①マグロタタキを最重要アイテムと位置づけて増販
- ②鮮魚・寿司種など生鮮供給拡大、顧客要望のあるチルド流通による販売強化

☆極洋水産(株)製品の大手回転寿司への安定供給

☆海外加工の充実

- ①韓国、インドネシアのワンフローズン製品の確保
- ②極洋水産(株)の海外まき網船漁獲原料の活用

☆養殖魚取扱い拡大

自社グループのみならず、他の養殖業者との連携による取扱いの拡大

6. 金融基盤強化のための短期社債(電子CP)発行

☆資金調達が多様化

☆借入金利の削減

◎格付の取得(2011年4月7日)

(株)日本格付研究所

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	50億円	J-2



7. 設備投資計画

(1) 極洋(単独) 8億円

鯉・鮪事業関連	3億円
(まぐろ養殖設備増強他)	
調理食品加工設備増強	2億円
ソフトウェア・パソコン他	3億円

(2) 関係会社 8億円

海外まき網船関連	3億円
関係会社工場 製造設備増強他	5億円

合 計 16億円

本資料は2011年3月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的として作成しており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。したがって実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なることがありますのでご承知おきください。



当資料に関する問い合わせ窓口

株式会社 極 洋 企画部 電話03-5545-0703